

長野県試験研究機関あり方懇話会（第1回）次第

日時：令和8年（2026年）8月4日（火）
10時から12時まで
会場：県庁本館3階 特別会議室

1 開会

2 議事

(1) 説明

- ① 長野県産業の概要（全体・特色等）
- ② 各分野における産業の現状と施策、試験研究機関の取組
 - (ア) 製造業・農業・林業ごとの概要
 - (イ) 各分野における施策の方針・方向性と、今後の連携
 - (ウ) 試験研究機関の概要、特色・主な役割

(2) 意見交換

「(仮称)長野県試験研究機関未来ビジョン」の策定に向け、ご意見等をお聞きする

- ・ 本県を取り巻く環境の変革を踏まえた将来の県内産業の姿について
- ・ 公設試験研究機関の果たすべき役割と、求められる人材像・人材育成について
- ・ 強化が必要な研究開発・技術支援機能や取組について
- ・ 基盤となる機能等の共通化・効率化の方向性について

3 閉会

長野県試験研究機関あり方懇話会（第１回）出席者名簿

令和８年（２０２６年）８月４日（火）
１０時から１２時まで
会場：県庁本館３階 特別会議室

【有識者】（五十音順）

氏 名	所 属 等	備 考
川合 豊彦 様	・ 井関農機株式会社 顧問 ・ 元農林水産省大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長	
佐藤 慎次郎 様	・ 公立大学法人 長野県立大学理事長 ・ 元テルモ（株）代表取締役社長 ＣＥＯ	
鈴木 信哉 様	・ ノースジャパン素材流通協同組合理事長 ・ 元林野庁中部森林管理局長 ・ 元森林総合研究所理事	
山村 昌平 様	・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究戦略本部 地域部 総括企画主幹 （兼務）地域連携推進室長	

【長野県】

氏 名	職 名	備 考
田中 達也	産業政策監	
木下 育夫	産業労働部次長	
片井 基典	農政部次長	
重野 靖	林務部次長	
山岸 光	工業技術総合センター所長	
佐々木 直人	農業試験場長	
小澤 岳弘	林業総合センター所長	

長野県試験研究機関あり方懇話会（第1回）席図

令和8年8月4日（火）
10時から12時まで
県庁本館3階 特別会議室

出入口

報道席

川合委員 ○

佐藤委員 ○

鈴木委員 ○

山村委員 ○

○ 重野
林務部
次長

○ 片井
農政部
次長

○ 木下
産業労働部
次長

○ 田中
産業政策監

○ 山岸
工業技術総合センター
所長

○ 佐々木
農業試験場長

○ 小澤
林業総合センター
所長

報道席

随行者・オブザーバー

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

事務局

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

出入口

第1回「懇話会」(8/4) 資料

- ・長野県における試験研究機関設置状況
- ・（仮称）長野県試験研究機関未来ビジョン ～策定の背景・考え～
- ・長野県試験研究機関あり方懇話会の進め方・検討体制
- ・長野県産業の概要（全体・特色等）
- ・各分野における産業の現状と施策、試験研究機関の取組
- ・意見交換テーマ

長野県における試験研究機関設置状況

【産業分野】

■産業労働部

工業技術総合センター

- ① 材料技術部門（長野市）
- ② 精密・電子技術部門（岡谷市）
- ③ 環境・情報技術部門（松本市）
- ④ 食品技術部門（長野市）
- ⑤ 技術連携部門、総務部門（長野市）

■農政部

- ⑥ 農業試験場（須坂市）
- ⑦ 果樹試験場（須坂市）
- ⑧ 野菜花き試験場（塩尻市）
- ⑨ 畜産試験場（塩尻市）
- ⑩ 南信農業試験場（高森町）
- ⑪ 水産試験場（安曇野市）

■林務部

- ⑫ 林業総合センター（塩尻市）

【環境・衛生分野】

■環境部

環境保全研究所

- ⑬ 安茂里庁舎（長野市）
（企画総務部、大気環境部、感染症部、食品・生活衛生部）
- ⑭ 飯綱庁舎（長野市）
（自然環境部）
- ⑮ 諏訪湖環境研究センター（岡谷市）



工業技術総合センター
食品技術部門テイスティング棟



環境保全研究所飯綱庁舎



野菜花き試験場



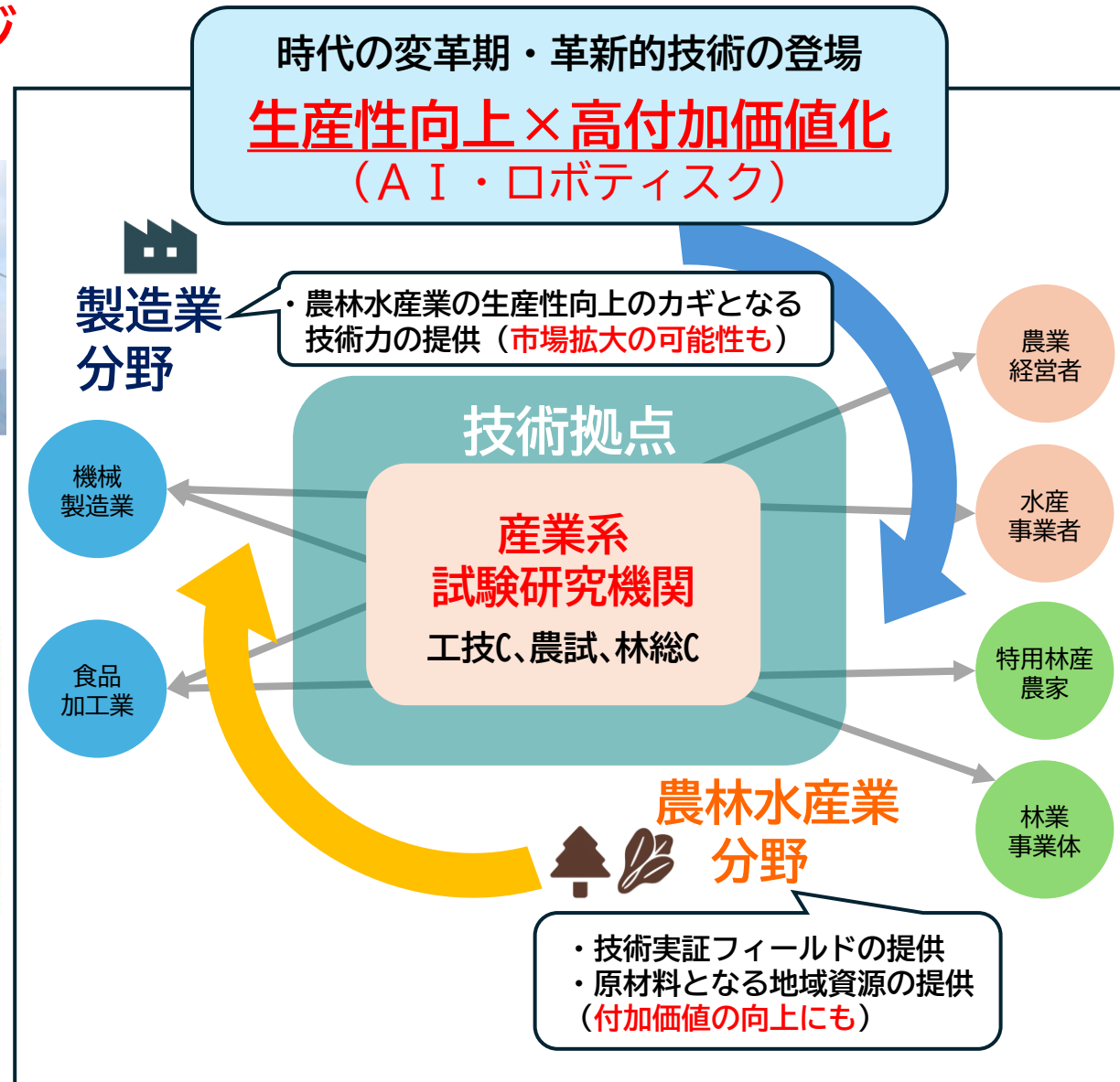
工業総合センター環境・情報技術部門
AI活用／IoTデバイス事業化・開発センター



諏訪湖環境研究センター

製造業、農業、林業の分野を越えた技術等の相互連携が より重要に

※イメージ



自動で集材作業を行う
AI搭載架線式マシン



森林の未利用資源 (林地残材等) から精油を抽出



ドローンによる
農薬散布



野菜・果樹等の
自動収穫ロボット

(仮称) 長野県試験研究機関未来ビジョン ～策定の背景・考え～

1 本県を取り巻く社会・産業の变革

大転換期

- 人口減少と少子高齢化の進行に伴い、各産業分野において労働力不足の一層深刻化。あわせて国内市場そのものが縮小へ向かう可能性
- AI・ロボティクス等の技術革新により、生産性向上・スマート化に向け、産業分野を超えた技術の相互活用が進展。(地方での浸透は、これから)
- 国際情勢の不安定化に伴い、サプライチェーンやエネルギー価格などの変動要因が増える中、地域資源の積極活用など産業の構造転換が重要に

2 県内産業の現状と課題の整理

製造業

- ・ 中小企業が多く、投資余力が小さく技術者も不足
- ・ 国際情勢による影響の最小化のためにも、地域に根付いた独自の技術を持つ企業を目指す必要性

農業（畜産・水産含む）

- ・ 担い手の不足と急速な高齢化が進行
- ・ 農業経営の法人化・大規模化、先端技術の活用による省力化等が必要

林業

- ・ 木材をはじめ多様な森林の恵みを暮らしに生かし、化石資源への依存からの転換を進めることが必要
- ・ 木材生産や里山管理を担う林業の発展を通じて、農山村の豊かな暮らしに貢献することが必要

ピンチは変革のチャンス

技術革新等を追い風とし、更なる成長産業へ「転換」する好機

試験研究機関の果たす役割は大

3 県内産業の目指す共通の方向性

生産現場への先端技術等の定着・浸透により
省力化・生産性向上と高付加価値化を進める

- 担い手不足、省力化・生産性向上等の課題は、製造業、農林業に共通
- 農林業の生産性向上は、製造業の技術力を活用し労働集約型からの脱却がさらに重要に。製造業の市場拡大効果も期待
- 農林業由来の地域資源が、新産業につながる可能性。地域内で資源が循環し、製造業・農林業双方の持続的な成長実現に寄与

『製造業×農業×林業』の相互連携がカギ
産業を技術面等から支える試験研究機関の
未来に向けた「共通ビジョン」が必要に

今後、有識者の意見等を踏まえ県が策定

4 (仮称)長野県試験研究機関未来ビジョン～骨格～

●対象機関（範囲）

産業分野の試験研究機関（工業技術総合センター、農業関係試験場、林業総合センター）
※環境・衛生分野の機関も協働機関として連携

●ビジョンの位置付け

社会・産業の变革を踏まえ、技術面から現場を支える公設試験研究機関の果たす役割と機能強化等の方向性をとりまとめ、地域産業成長プラン等の産業政策の推進につなげる

●ターゲットとする年次：概ね10年後（2037年 又は 2040年）

●ビジョンにおいて定めるもの

- ・ 公設試験研究機関の果たすべき役割と求められる人材像・人材育成
- ・ 研究開発・技術支援等の強化すべき機能・取組
- ・ 基盤となる機能等の共通化・効率化の方向性 等

長野県試験研究機関あり方懇話会の進め方・検討体制

県試験研究機関未来ビジョン(仮称)の策定に向けて

■R8[懇話会]の進め方

- 第1回 8月4日(火) 10時～12時 特別会議室
現状と課題共有、大きな方向性に係る意見交換
 - ① 開催趣旨等(目的、検討範囲、スケジュール等)の説明
 - ② 各分野の政策の大きな方向性と試験研究機関の現状と課題
 - ③ 有識者との意見交換
 - ・大転換期における試験研究機関が果たす役割など大きな方向性 等
- 第2回 10月又は11月
ビジョン骨子に対する意見交換等
 - ① 試験研究機関未来ビジョン骨子の提示
 - ② 有識者との意見交換
 - ・公設機関が果たす役割、強化すべき機能等
 - ・ビジョンの実現に必要な基盤等(体制、人材育成、外部連携 等)
- 第3回(12月又は1月)
ビジョン素案に対する意見交換等
 - ① 試験研究機関未来ビジョン素案の説明と意見交換
 - ② 3回にわたる懇話会での意見聴取等を踏まえた今後の対応

■懇話会委員の構成 4名

あいうえお順

氏名	所属等
川合 豊彦 様	・井関農機株式会社 顧問 ・元農林水産省大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長
佐藤慎次郎 様	・公立大学法人 長野県立大学理事長 ・元テルモ(株)代表取締役社長CEO
鈴木 信哉 様	・ノースジャパン素材流通協同組合理事長 ・元林野庁中部森林管理局長 ・元森林総合研究所理事
山村 昌平 様	・国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究戦略本部 地域部 総括企画主幹 (兼務) 地域連携推進室長

○県機関等

- ・産業政策監、関係部局の次長
(産業労働部、農政部、林務部)
- ・産業系試験研究機関の長
工業技術総合センター、農業関係試験場、林業総合センター

県庁調整会議の設置・検討(7月～)

- ・ビジョンの策定作業
- ・ビジョンを具現化する方策等検討

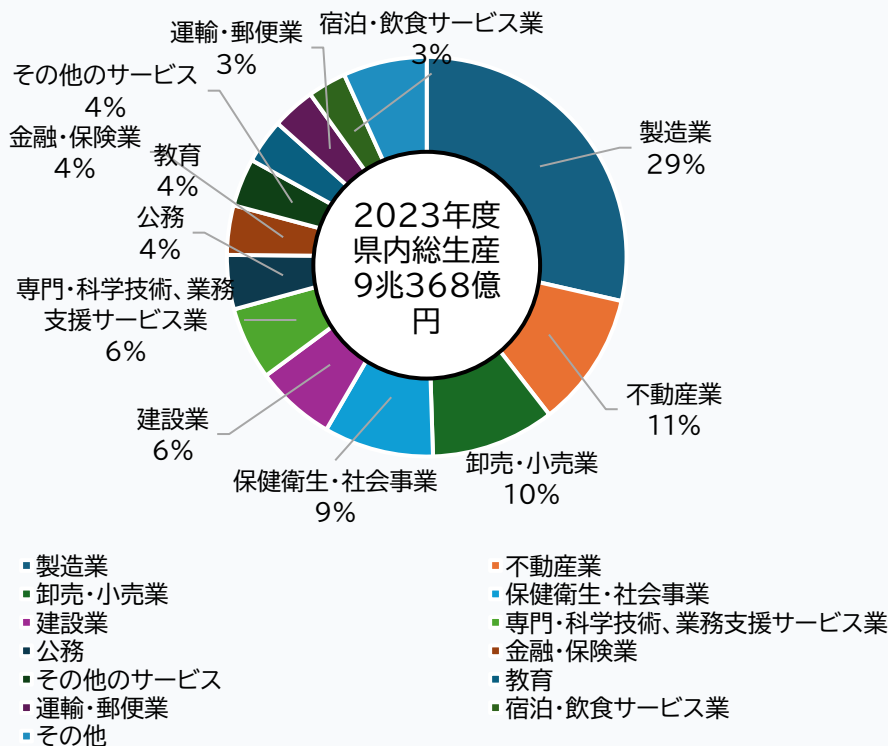
関係部局	・産業政策監、産業労働部、農政部、林務部、総務部
産業系 試験研究機関	・工業技術総合センター、農業関係試験場、林業総合センター
オブザーバー	・環境部、環境保全研究所、諏訪湖環境研究センター

長野県産業の概要

- 豊かな自然環境と精密加工の伝統を背景に、加工組立型製造業の高度な集積や、全国1位の林業産出、豊富な山岳観光資源など多角的な強みを有する。
- 県内総生産(約9兆円)のうち製造業が約29%と全国平均を上回り、ニッチ分野でトップシェアを誇る企業が集積する基幹産業となっている。
- 就業者は製造業(約20%)が最多だが、今後の急速な人口減少と労働制約を見据え、全産業における高付加価値化とAI/DX等による生産性向上への構造転換が急務である。

産業構造

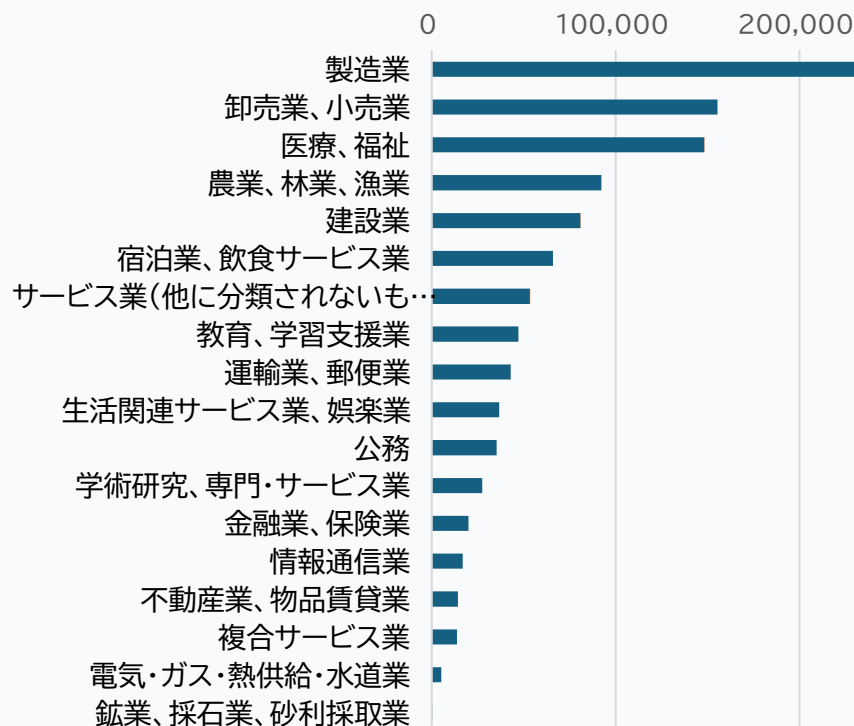
県内総生産(名目) 約9兆円



出典：長野県企画振興部「令和5年度(2023年度)県民経済計算」

就業構造(産業別)

就業者数 約108万人



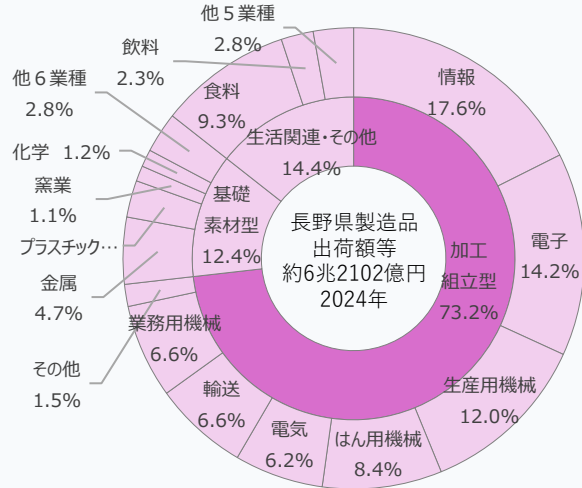
出典：総務省「令和2年国勢調査結果」

長野県産業の概要 ～分野別～

製造業

- ・情報通信機械器具 出荷額 全国トップクラス
- ・全県的なニッチトップ企業の集積

製造品出荷額等の構成比（従業員30人以上）

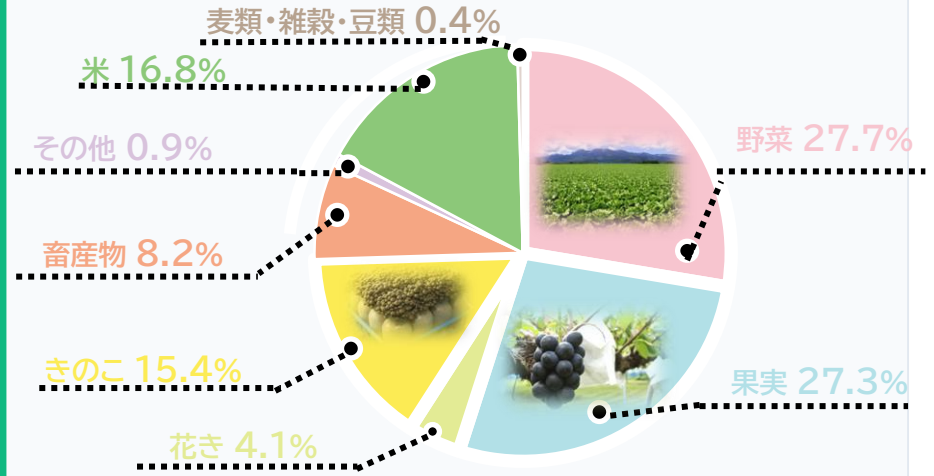


出典：経済産業省「経済構造実態調査」(令和6年)

農業

- ・園芸作物(野菜、果実、花き、きのこ)産出額は全国トップクラス(2,824億円)

農産物産出額の構成比

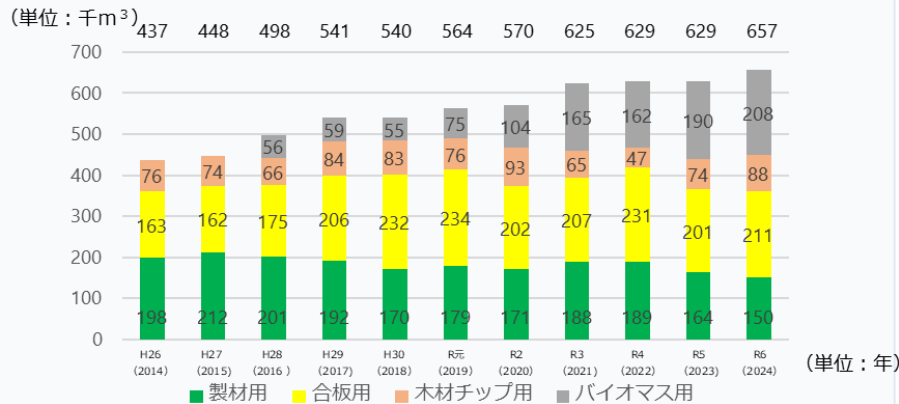


出典：農林水産省「生産農業所得統計」(令和6年)

林業

- ・木材生産量は着実に増加
- ・合板用材の国産材シフト等により需要が増加傾向

長野県内の木材生産量の推移

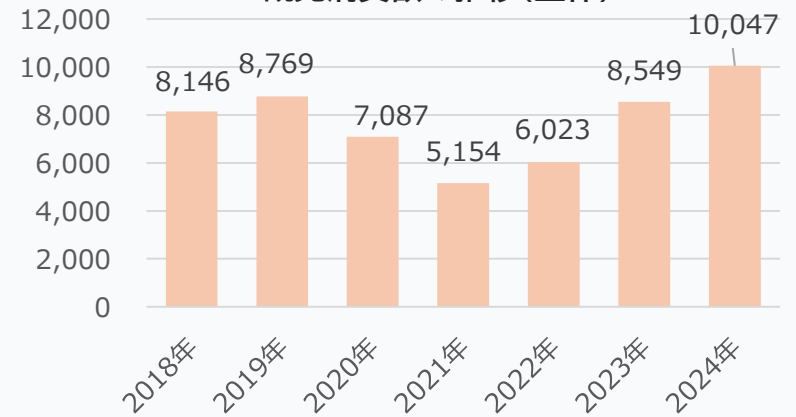


出典：農林水産省「木材需給報告書」及び長野県林務部「木質バイオマス生産量」

観光業

- ・自然や文化を活かした観光資源への強い誘客力
- ・インバウンド需要拡大に伴う観光消費額の増加

観光消費額の推移(全体)

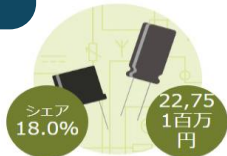


出典：長野県「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく長野県観光入込客統計結果

長野県産業の概要 ～品目別～

豊かな自然環境と広大な県土 ➤ 地域の特性・特徴を持った産業が各地に点在

工業



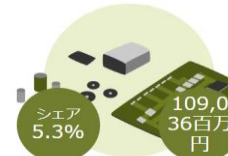
水晶振動子（時計用を除く）出荷額
全国 1位

経済構造実態調査 2024年確報品目別統計表※毎年公表



真空ポンプ出荷額
全国 2位

※ドライ真空ポンプ、消防用真空ポンプなど
経済構造実態調査2024年確報品目別統計表



電子部品・デバイス・電子回路出荷額
全国 4位

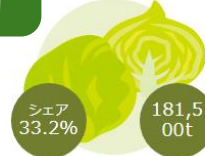
経済構造実態調査 2024年確報品目別統計表※毎年公表



水力発電による発電量
全国 4位

※山々に囲まれた地形と水に恵まれた自然環境は水力発電に適しています
資源エネルギー庁 令和5年度 電力調査統計表※毎年公表

農産物



レタスの収穫量
全国 1位

令和5年度野菜生産出荷統計（農林水産省）※毎年12月公表



えのきたけの生産量
全国 1位

令和6年特用林産物生産統計（林野庁）※毎年公表



りんごの収穫量
全国 2位

令和5年度果樹生産出荷統計（農林水産省）※毎年公表



ワイン用ぶどうの生産量
全国 2位

令和4年度特産果樹生産動態等調査（農林水産省）※毎年公表

食品



味噌出荷額
全国 1位

経済構造実態調査 2024年確報品目別統計表※毎年公表



日本酒蔵の数
全国 2位

長野県酒造組合（令和7年8月19日現在）※毎年公表



かんてん出荷額
全国 1位

経済構造実態調査 2024年確報品目別統計表※毎年公表



ワイナリーの数
全国 2位

長野県産業労働部産業技術課調べ（令和7年8月19日現在）※毎年公表

観光



温泉地の数
全国 2位

※1位 北海道 230か所、3位 新潟県 137か所
令和5年度温泉利用状況（環境省）※毎年公表



スキー場の数
全国 2位

※うち78か所が営業
長野県観光スポーツ部山岳高原観光課調べ（R6～R7）※毎年公表

自然



林野面積
全国 3位

※長野県の面積の約8割
2020年 農林業センサス（農林水産省）※5年ごと公表



河川延長
全国 2位

※1位 北海道 15456.5km
河川データベース2024（国土交通省）※毎年公表

①長野県におけるの製造業の概要

農業 //

林業 //

1枚

②施策の方針・方向性と、今後（更に）必要な連携例

③工業技術総合センターの概要、特色・主な役割

農業関係試験場

林業総合センター

1枚

長野県における製造業の概要 1/2

①長野県におけるの製造業の概要

県内総生産の28.4%（2兆5,694億円）、県内従業者数の24.8%（約19万人）を占める本県の基幹産業

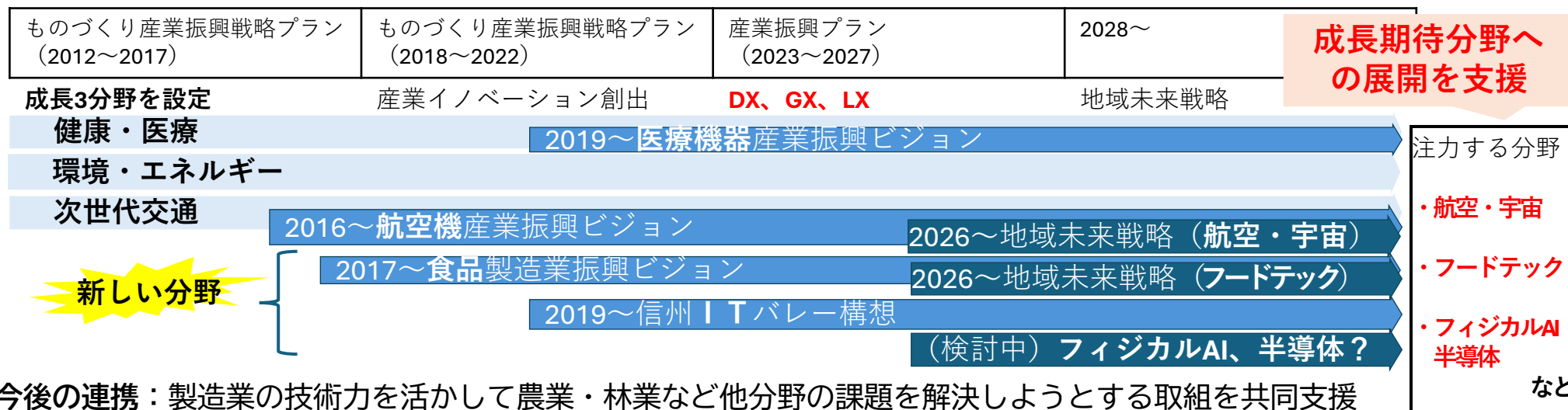
【特徴・強み】

- ・ 明治～昭和初期の製糸業、カメラやオルゴールなどの精密機械工業、それらで培った精密加工技術を活用した電子・情報・自動車産業へと柔軟に変化
- ・ 海から遠い立地→小型・軽量・精密のものづくりが強み
- ・ 食品については、海がなく雪に閉ざされる地域性を背景とした、食料を長期間保存するために発展した発酵・保存技術が特色（味噌や高野豆腐の出荷額全国1位、酒蔵・ワイナリー数は全国第2位）

【課題】

- ・ 完成品メーカーが少なく（部品メーカーが多く）、海外状況の影響を受けやすい下請型・受託加工型企業が多く、付加価値獲得力が弱い→製造品出荷額の66%が加工組立型（全国2位）
- ・ 食品については、国内市場の縮小と食ニーズの変化への対応が必要

②施策の方針・方向性と、今後の連携



今後の連携：製造業の技術力を活かして農業・林業など他分野の課題を解決しようとする取組を共同支援
→例：センサーメーカーによる土壌分析サービス →新たなビジネスに！

県内の試験研究機関と連携（人材育成、研究、AI活用、機器利用等）、県外の試験研究機関や大学と連携（機器利用、人事交流等）

長野県における製造業の概要 2/2

③工業技術総合センターの概要、特色・主な役割

数値はR7の実績

役割

概要・特色

研究会・研修会		測定	分析	評価	原因究明	試作	研究開発
産業人材育成		技術相談（無料）・依頼試験（有料）・設備利用（有料）				共同研究・受託研究（一部有料）	
技 術 部 門	所在地	強みの支援分野	技術職員	技術相談	依頼試験	設備利用	研究開発
材 料	長野市	材料評価、3D造形等	26名	8,038件	12,891件	2,193件	20テーマ
精密・電子	岡谷市	EMC、電気計測 超精密測定等	30名	5,267件	10,502件	4,684件	31テーマ
環境・情報	松本市	AI・IoT、脱炭素、 動作計測等	16名	2,418件	3,492件	730件	21テーマ
食 品	長野市	発酵・加工、乳酸 菌等選抜育種等	17名	2,653件	1,876件	1,820件	27テーマ
センター 計			89名	18,376件	28,761件	9,427件	99テーマ

特徴的な試験・研究実績及び 現在どのように役立っているか

いずれも主なステークホルダーは
県内製造業

企業が作る製品・部品の測定・分析・評価・原因究明
→製品の不良原因特定・機能評価など

共に考える

精密加工・
精密測定
技術



電子機器・
EMC（電磁波
ノイズ対策）
評価技術



工業材料評
価技術



伝統食品等
の微生物応
用技術



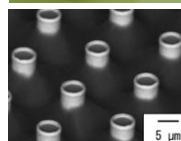
企業が取り組む試作・研究開発の支援
→新たな製品や技術の開発・普及

共に創る

切削屑を金属3Dプ
リントの材料粉末に
再生する技術開発



半導体デバイス検査
用部品の高性能化に
関する共同研究



AIを活用した協
働作業ロボットの
開発



長野酵母を使用
した製品の商品
化

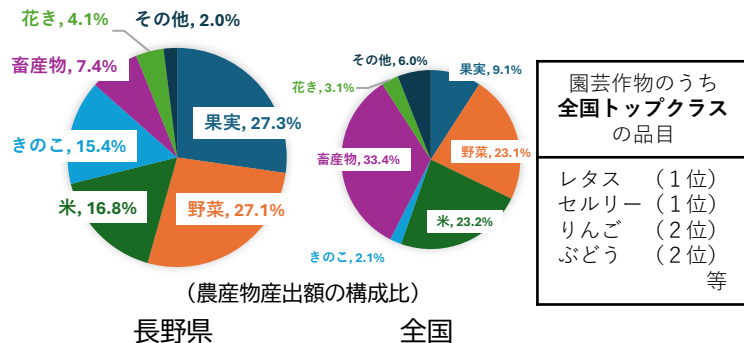


長野県における農業の概要 1/2

①長野県における農業の概要

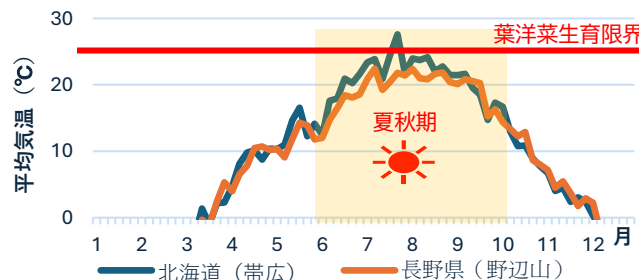
【特徴】

- ・多彩な品目が生産され、特に園芸品目の産出額は全国トップクラス



【強み、特色】

- ・冷涼な気候と標高差(260~1,490mに耕地が存在)→夏期の高品質な野菜生産や、リレー出荷が可能



- ・3大消費地に近い好立地(鮮度、輸送費で有利)→東京、大阪、名古屋は松本市から半径300km圏内

【課題】

- ・農業者の減少による担い手不足→販売農家数が19%減少(R2:40,510→R7:32,879)→「10年後に守るべき農地」のうち「担い手が不在の農地」が35%

- ・気候変動によるリスク(収量、品質等)



【コメの白未熟粒】



【りんごの日焼け】



【レタスの内部褐変】

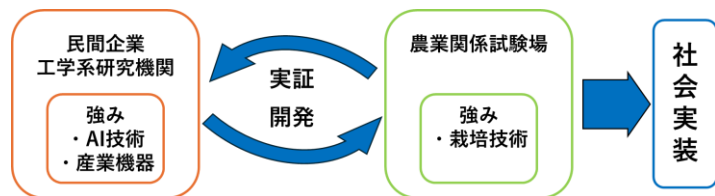
②農業分野における施策の方針・方向性と、今後の連携

- ・上記の課題に対応するため、省人化や温暖化への対応が急務

○徹底した省人化…スマート農業等先端技術活用

(連携例)

- スマート農業の社会実装を加速化するため、AI・産業機器に長けた民間企業や研究機関と技術開発・実証段階から連携



○温暖化対応…高温に対応した品種の開発

(連携例)

- 農業関係試験場と工業技術センター等が連携した遺伝子解析体制の構築



長野県における農業の概要 2/2

③試験研究機関の概要、特色・主な役割

(1) 組織概要

生産力の強化、収益性の向上及び地球環境に配慮した持続可能な農業・水産業の実現に向け、作物、果樹、野菜・花き、畜産、水産に関する試験研究を推進する。

農業試験場(35名)、果樹試験場(21名)、野菜花き試験場(40名) ※ () 書きは職員数(会計年度職員除く)
畜産試験場(18名)、南信農業試験場(8名)、水産試験場(26名) 計6か所、専門試験場として設置

(2) 特色・主な役割

5年ごとに策定する「農業技術ステップアッププログラム」に沿って研究開発を推進し、その成果を新しい品種や技術として公表し、生産現場への普及・定着を図っている。また、技術開発を担う試験場と現地を支援する農業農村支援センターが密接に連携し、技術の開発から普及まで一体となって取り組む体制が強みである。

特徴的な試験・研究実績(他県との比較により特徴的なもの)及び 現在どのように役立っているか

試験場

○長年の育種研究で培った**高い新品種開発力**

➤国内外の市場で評価されるりんご、ぶどう品種

- ・りんご10品種、ぶどう2品種を登録
- ・シナノスイート
全国での栽培面積 国内5位(全体の3.1%)
- ・シナノゴールド
知的財産権や商標を活用した海外展開
- ・ナガノパープル、クイーンルージュ®
2026農畜産物トレンド調査(売れ筋、消費動向)
でともに7位



➤実用性の高い耐病性品種

○新品種の特性を最大限に生かす**栽培技術**

- 現場の課題を解決する安定生産技術の開発
- 安定生産、省力・低コスト技術
 - ・ナガノパープルの裂果対策、クイーンルージュ®の着色向上

農業農村支援センター、JA

○技術支援

- 現地実証、栽培指導
- 研修会開催等を通じて産地への普及・定着

○現地課題のフィードバック

- 現地課題の把握
- 新たな技術に対する要望の収集

生産者・産地 (ステークホルダー)

- 新品種の導入・作付拡大
- 新技術を活用した
高品質・安定生産の実践
- 産地に適した栽培体系
の確立

高品質果実の
安定供給

実需者・消費者

- 良食味果実の購入
- 多様な品種を選択

長野県における林業の概要 1/2

木曽谷・伊那谷は、森林や林業に関する教育機関や試験研究機関が比較的近距离で集積。分野横断的な取組を推進中。

① 長野県における林業の概要

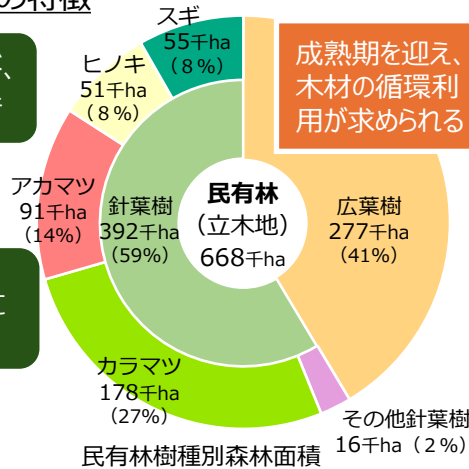
北海道や岩手県等全国のカラマツ林の多くは、長野県産の種子・苗木がルーツ

【特徴】

- ◆カラマツをはじめ、多様な樹種が生育していることが本県の特徴

全国ではスギ、ヒノキが大半

森林面積
森林率ともに
全国第3位



成熟期を迎え、木材の循環利用が求められる

【強み・特色】

- ◆カラマツの木材生産量は全国2位（236千㎡・R7）
 - ・カラマツは強度性能が高く、首都圏で駅ビルや学校等での活用が進展
- ◆多様な森林の恵みの活用は本県の強み
 - ・薪の生産1位
 - ・森林セラピー基地・ロードの認定件数1位



カラマツばかりでなく、多様な樹種の活用を進めることが必要



多様な森林の恵みを持続的な産業として成立させることが必要

- ◆木曽谷・伊那谷フォレストバレーの目指すところ

世代やキャリアに応じて木や森を学べる環境

- ・子どもや市民が木や森と日常的にふれあう機会の充実
- ・専門的な学びによる産業人材の育成
- ・社会人向けリカレント教育の充実による高度な人材の輩出

森林資源を活用したイノベーションの創出

- ・木や森に関する起業や創業を目指す人材の拠点に
- ・社会のニーズに応じた多様な技術やビジネスの発達

【課題】

② 施策の方針・方向性と、今後の連携

本県林業の課題と併せ、「人口減少が進む中での農山村の持続性確保」と、「化石資源依存から地域資源活用への転換」は社会的な課題

- ✓ 森林からの木材搬出を担う林業と、農山村地域の里山管理を担う林業の双方の発展により、信州の多様な森林を次世代へつなぐ持続的な林業を実現

（連携例）◆ スマート技術の農林相互活用

- ◆ 森林・農地・集落の一体的な獣害対策に向けたAIカメラ等による監視システム構築

- ✓ 木材、香り、食、健康、生物多様性など多様な森林の恵みを活かし、信州ならではの豊かな暮らしを実現

（連携例）◆ 木材を活用した家具や日用品の開発に対する技術的支援（樹種特性、製品設計、加工技術、デザイン等）

- ◆ 森林の香りを活かした食品（飲料、菓子類等）の開発等の支援
- ◆ 森林・農地・集落一帯の生物多様性評価手法の開発（自然の豊かさの価値が見える化）

長野県における林業の概要 2/2

③ 林業総合センターの概要、特色・主な役割

✓ 森林・林業・木材産業に係る研究開発、技術支援、人材育成を担う試験研究機関 (木曽谷・伊那谷フォレストバレー拠点)

✓ 試験研究・指導部門 ※ () 書きは職員数 (会計年度任用職員除く)

「森林づくりで未来につなぐ恵みと豊かな暮らし」の実現のため、県民や森林・林業関係者が必要とする試験研究や開発を推進

- ◆ 育林部 (4名) : 健全な森林の育成 (森林管理・病虫獣害防除・山地災害防止) に関する技術
- ◆ 特産部 (3名) : 木材以外の森林の産物 (きのこ・山菜・木炭・精油など) に関する生産技術
- ◆ 木材部 (4名) : 木材や木製品の材質・強度などに係る試験や乾燥技術の開発
- ◆ 指導部 (4名) : 安全で効率的な作業ができる林業技術者や里山等地域森林の多様な担い手を育成

特徴的な試験・研究実績 (他県との比較により特徴的なもの) 及び 現在どのように役立っているか

✓ 県民の安全・安心

- ◆ CS立体図の開発
- ◆ 野生鳥獣虫病害の防除

✓ 地域資源の活用

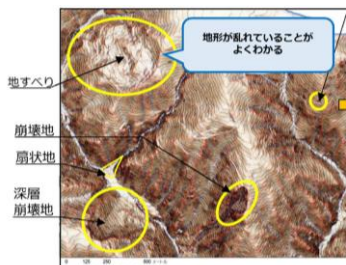
- ◆ 精油抽出装置の開発
- ◆ カラマツや広葉樹乾燥技術

✓ 林業の生産性向上

- ◆ 森林作業の低コスト化
- ◆ 林業作業者の育成

✓ CS立体図 ▶自治体・事業者

- ・ 全国で利用
- ・ 災害危険箇所の推測
- ・ 安全な森林作業に寄与



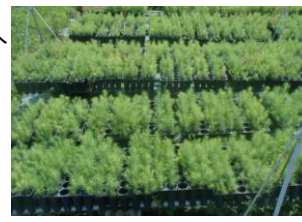
✓ 精油抽出装置 ▶企業・山村

- ・ 安価な装置を開発
- ・ 林地残材の活用による伐採木の高付加価値化
- ・ 小規模事業者参入



✓ 低コスト造林 ▶事業者

- ・ 機械地拵えの導入による生産性、安全性の向上
- ・ 優良苗木の研究
→ 下刈り回数削減



意見交換

次項の「お聞きしたい項目①～④」につきまして、

- ・最初に「①と②」の括り（概ね**40分**を想定）
 - ・次に「③と④」の括り（概ね**40分**を想定）
- でご意見等をお伺いしていきます。

その後、残りの時間（概ね**15分**を想定）で、さらにご意見等をお伺いし、議論を深めていきます。

～概ね10年後を見据えた姿～（2037年又は2040年頃）

① 本県を取り巻く環境の变革を踏まえた将来の県内産業の姿について

- ・人口減少下でも経済成長を続けるため、県内産業にとって重要な視点は何か（長野県らしさや強みを踏まえて）
- ・長野県産業の特色や強みを踏まえ、**横断的に取り組むべき**ことは何か（森林資源、果樹、発酵食品、精密・電子 等）
- ・AI・ロボティクス等の革新的技術の到来は、現在の産業のあり方にどのような変革をもたらすのか

② 公設試験研究機関の果たすべき役割と、求められる人材像・人材育成について

- ・上記①の变革に対応すべく、地方の公設試験研究機関が果たす役割として何が求められるのか
例）◆地方大学、民間、国等との連携（ハブ）、◆先端技術導入やイノベーション等の牽引役、◆現場に信頼される地道な役割 等
- ・公設試験研究機関の研究者に求められる能力・姿勢・専門性は何か（研究と依頼試験等とのバランス等）
- ・将来、中核を担う若手職員をどのように育成していくべきか（資格取得、幅広い経験、挑戦できる環境 等）

～上記①・②を踏まえ、今後取り組むべきこと～

③ 強化が必要な研究開発・技術支援機能や取組について（継続性の重視も含む）

- ・重点的に取り組むべき研究・技術支援のテーマは何か（**分野全般に共通する視点**、各分野ごとの視点）
- ・先端技術等を現場での実装につなげるために、強化すべき機能は何か（実証フィールド提供、ベンチャー協働 等）

④ 基盤となる機能等の共通化・効率化の方向性について

- ・各試験研究機関が**共通化すると効果的**な取組は何か（研究×実装：AI・ロボ、高額機器活用、知財、蓄積データ 等）